

# 作品情報

## 7月上映作品

### 『明け行く空』



弁士 / 佐々木亜希子  
楽士 / 永田雅代

1929年(昭和4年)松竹キネマ蒲田作品 60分  
監督 / 斎藤寅次郎 脚本 / 水島あやめ  
出演 / 川田芳子、高尾光子、河村黎吉

日本初の女流脚本家水島あやめの脚本を、喜劇の天才・斎藤寅次郎監督が演出した母モノ。二人の個性が融合し独特の味わいが出た貴重な作品。やむなく別れた母と娘、祖父の愛情が、昭和初期のほのぼのした村の日常の中に描かれている。

### 『モダン怪談100,000,000円』



弁士 / 藤本剛  
楽士 / 永田雅代

1929年(昭和4年)松竹キネマ蒲田作品 16分  
監督 / 斎藤寅次郎  
主演 / 斎藤達雄、松井潤子、坂本武、小倉繁

駆け落ちした若い男女が赤城山で国定忠次の幽霊と出会うドタバタコメディ。斎藤寅次郎らしいナンセンスな笑いが全編を貫いている。永らく失われていると考えられていたが、2003年短縮版プリントが奇跡的に発見された。

## 8月上映作品

### 『吸血鬼ノスフェラトゥ』



弁士 / 佐々木亜希子  
楽士 / 永田雅代

1922年 独 ブラナ社作品 63分  
監督 / F・W・ムルナウ  
出演 / マクス・シュレック、アレクサンダー・グラナッハ

ブラム・ストーカーの怪奇小説『吸血鬼ドラキュラ』を非公式に映画化。巨匠F・W・ムルナウによる、恐怖映画の定番、吸血鬼伝説の元祖といえる作品。プレーメンに住む不動産業者のハーカーは、仕事でトランシルバニアの古城へ行く事に。しかしそこで次々に奇怪な事件が…。無気味な雰囲気の中にロマンが漂う作品。

### 『アッシャー家の末裔』



弁士 / おさべせりな  
楽士 / 永田雅代

1928年 仏 47分  
原作 / エドガー・アラン・ポー『アッシャー家の崩壊』  
監督 / ジャン・エブシュタイン  
脚本 / ジャン・エブシュタイン、ルイス・ブニュエル  
出演 / シャルル・ラミ、ジャン・ドビュクール、マルグリート・ガンズ

アメリカ怪奇小説の大家、E・A・ポーのゴシック風恐怖小説「アッシャー家の崩壊」をフランスで映画化。当時パリで活動していたルイス・ブニュエルが脚本等で一部参加している。当時31歳のジャン・エブシュタイン監督を初め、ヨーロッパ映画の若い才能が集結した本作は、サイレント映画成熟期の傑作とされている。

※全回に白井佳夫先生の映像解説あり(約10分)



### 佐々木亜希子 [Akiko Sasaki]

山形県酒田市出身。NHK山形放送局でニュースキャスターを務めた後、2001年より活動写真弁士として活躍。ウィットに富んだ台本と七色の声でキャラクターと作品を活かす語り方が人気を博し、全国各地の映画祭や上映会に出演。レパートリーは220本以上、学校公演や活弁ワークショップの開催も多く、現在最も活躍する活動弁士の一人。活弁を活かした音声ガイドも数多く手がけ、NPO法人Bmap理事長として、バリアフリー映画の上映活動も行っている。著書『カツベンっておもしろい!現代に生きるエンターテインメント「活弁」』(論創社)他



### 藤本剛 [Tsuyoshi Fujimoto]

声優・俳優。日本ナレーション演技に4年間在籍、声を使った演技が中心。パルクールドキュメンタリー映画『Nothing is Something』(2021年)にナレーション出演。活弁公演への出演や、浅草の路上にて紙芝居の口演など、精力的に活動を行っている。



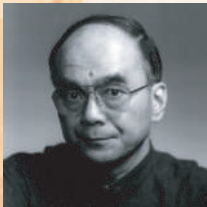
### おさべせりな [Serina Osabe]

声優・俳優・脚本家。ボイスドラマ、ラジオパーソナリティー、ダンスステージへの出演など活動は多岐にわたる。作・演出・出演による自主公演や、ゲーム製作も行っており、作家としての一面も見せる。小学生の頃より活弁を佐々木亜希子氏に師事。活弁公演にも出演経験多数。



### 永田雅代 [Masayo Nagata] (ピアノ、キーボード)

鹿児島県鹿屋市出身。Jazz、Folk、Ireland trad、演歌、Hip-Hopなど多種多彩なジャンルのアーティストと共演。CD制作、プロデュースも多数。'17年スペインLiedaでのFado Festivalに出演。無声映画の楽士として、映画祭、劇場、学校公演などに出演。幅広いジャンルの音楽と作品理解に基づいた即興演奏は定評がある。活動弁士佐々木亜希子とのコンビは20年。100作品500公演以上で共演している。



### 白井佳夫 [Yoshio Shirai] (映画評論家)

東京都出身。1958年早稲田大学第二文学部演劇専修卒業。キネマ旬報社に入社して編集者として10年在籍、1968-76年『キネマ旬報』編集長を8年半つとめる。1976年から3年間、東京12チャンネルで「日本映画名作劇場」の解説を担当。1987年から、映画「無法松の一生」(1943年)の戦前、戦後の二重検閲場面を復元し、各地で公開・講演するパフォーマンスを実施。2002年から3年間、東京芸術大学で特別講義「日本の古典映画」を行う。2004年文化庁映画賞受賞